

新特別急酵 使用方法



resQ45のコンセプトは **recycle**、**eco**、**Speed**、**Quality** (resQ)
理想的なリサイクルを実現します

resQ45は植物繊維分解酵素と高温菌を組み合わせ
好気性発酵・堆肥化を促進させる仕組みです。

- 1 堆肥化期間の短縮(良質堆肥を短期間で生産)
約1ヶ月 → 約2週間 * 鶏糞の場合
- 2 堆肥化時に発生する悪臭の大幅低減
アンモニア臭 約50~90%削減
- 3 堆肥原料の減容
従来方式比 約30%減容率アップ

* 実例で保証値ではありません

3つの効果で畜産農家のお役に立つことができます。



○新特別急酵(包装:8kg/袋 粉体)

堆肥化促進システムresQ45の使用について

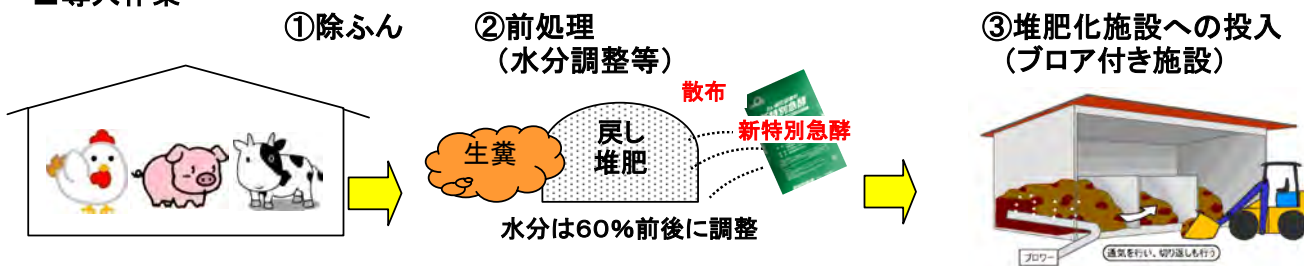
resQ45の「新特別急酵」は、畜ふんに直接散布する資材です。

投入方法

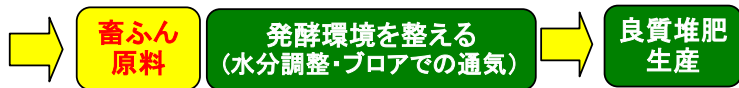
新特別急酵は好気性発酵促進資材ですので空気(ブロー)が必要です

毎回の前処理(水分調整等)時に生ふんに直接散布して、ローダーや攪拌機を使い混合してください。

■導入作業



新特別急酵



新特別急酵



空気



使用量

■新特別急酵(酵素+高温菌)

原料生ふん10m³に対し1袋(8kg)を散布します。

尚 長期滞留糞等でエネルギーの少ない原料生ふん向けには 1袋(13kg)のコンポ向けを推奨致します。

(注)水分調整用の戻し堆肥は原料生ふん数量に入れる必要はありません

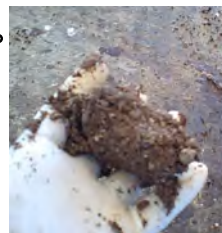
特別な散布装置は必要ありません。粉状ですので簡単に畜ふんに散布できます

新特別急酵1種類を使用するだけです。簡単で手間が掛かりません

使用条件

resQ45は好気性発酵を助ける仕組みですので、以下の条件を満たす必要があります。

- ①水分調整 : 含水率60%前後が目安 (ふんを握りかたまる程度:右写真参照)
- ②ブローでの通気 : 50~300ℓ/m³/分 (中央畜産会:堆肥化設計マニュアル)
- ③攪拌・切返し : 適時(頻繁な攪拌は堆肥化温度を下げる原因になりますのでご注意ください)



(水分調整)

堆肥化施設別の資材散布実例

堆積方式

■スコップを使い手で散布



■ローダーのバケットを利用してふんに散布



■生ふんに袋から直接散布



■ベルコンから出るふんに直接散布



■水分調整槽での混合



攪拌方式

■直線レーン上に乗るふんに直接散布
(高含水ふん・戻し堆肥で堤防を作り水分調整)



■エンドレスレーンに投入したふんに直接散布



■直線レーンの入り口でローダーを使い直接散布



■攪拌機の上にある生ふん用のホッパーに資材も同時投入し、レーンに直接散布



「縦型コンポスト」での”新特別急酵”の使用方法

新特別急酵 は

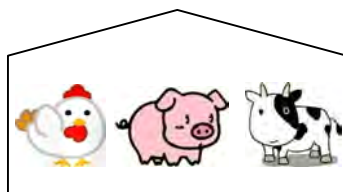
食物繊維分解酵素と高温菌とを組み合わせ
畜ふんの堆肥化を助ける資材です。



- 包装:
○新特別急酵 8 kg /袋
- 使用方法:
畜ふんに直接散布・混合
- 使用量:
○新特別急酵 1袋(8kg)/糞10m³

投入方法

- 導入作業 ①除ふん ②投入前処理 ③コンポストへの投入



前処理で酵素を畜糞に
より多く混合させる



使用量

毎日バケツへ畜ふんを投入する
際に”新特別急酵”を畜ふんに散布
するだけで極めて簡単です！
10m³の原料糞なら 1袋
15m³の原料糞なら 1.5袋
20m³の原料糞なら 2袋

■新特別急酵(酵素+高温菌)

原料生ふん10m³に対し1袋(8kg)を散布します。

尚 長期滞留糞等でエネルギーの少ない原料生ふん向けには 1袋(13kg)のコンポ向けを推奨致します。

(注)水分調整用の戻し堆肥は原料生ふん数量に入れる必要はありません

☆前処理場所があればコンポへの投入前に畜糞と新特別急酵の混合をお勧めします

■ 特別な散布装置は必要ありません。粉状ですので簡単に畜ふんに散布できます！

■ 毎日のバケツへの畜ふん投入作業に資材の散布だけです！

■ 全てのバケツに散布は不要！6回バケツ数なら3回目と6回目の2回でOK！

■ 堆肥化工程がバッチ式、連続式でも必要資材は投入する原料ふんベースです

効果

- ◆発酵促進を強力サポート！
- ◆寒冷期で夏季と同じ発酵力！
- ◆アンモニア臭の大幅低減！
- ◆有機物の分解率アップ(減容)！

ご参考資料

1. 水分調整

含水率が低い副資材(戻し堆肥)を使って調整することが大切です。ただし以下のことに注意し適切な調整を行ってください。

- モミガラやオガクズは水分が低く混ぜ易い資材ですが費用が発生します。
- 完成した堆肥は費用の掛からない副資材になりますが、水分が10%違うだけで、堆肥化原料が倍にもなります。

水分80%のふん1トン
を60%に調整したい。

生糞
1トン

水分の少ない
戻し堆肥を製造
する事が原料を
増やさない秘訣
です。

①戻しの水分が55%の場合



戻しが4ト必要で、計5トを
堆肥化する事になります。



②戻しの水分が50%の場合



戻しは2トで、計3トに。



③戻しの水分が45%の場合

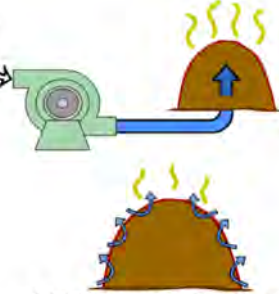


戻し約1.3ト、計2.3ト



2. 空気 好気性発酵を行うためには送風機(ブロー)での通気が必要です。

適切な空気量は
1時間に堆肥の
10倍量もいる



自然の対流だけでは空気が不十分だし
中まで入って行かない

ブロー設備の保守点検に努め、堆肥化作業時
も蒸気・温度を参考に通気が確保がされて
いるか確認しましょう。

(配管の目詰まり防止にモミガラを入れると良いです)



目詰り

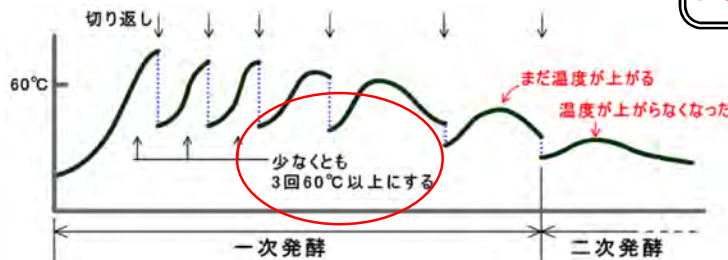


(図:畜産環境整備機構資料)

3. 温度

温度チェックは堆肥化の良し悪しの重要な目安です。(下図参照)
温度計を堆肥原料に刺して温度を測りましょう。(左下写真参照)

温度上昇は堆肥化
の良し悪しの重要な
指標です。



(写真及び図:畜産環境整備機構資料)

豊田通商株式会社 農水事業部

住所 東京都港区港南2-3-13

Tel 03-4306-3834

Fax 03-4306-8863